Keio Associated Repository of Academic resouces

reio / issociated reposi	1 Academic resouces						
Title	教育のための英語史記述の方法						
Sub Title	On the historiography of the English language for education						
Author	堀田, 隆一(Hotta, Ryuichi)						
Publisher	慶應義塾大学						
Publication year							
Jtitle	学事振興資金研究成果実績報告書 (2017.)						
JaLC DOI	丁尹]						
	大切のの目的は						
Abstract	本研究の目的は、 従来の英語史記述がもっぱら学術的な意図をもって書かれてきたことに対して意義を唱え、 英語史が英語教育や歴史教育のために書かれるべきことを提案し、 その方法について議論することである。本年度は、 英単語の発音とスペリングの関係を巡る歴史的な問題について、英語原著の翻訳出版、論文執筆、学会発表などを行なった。具体的には以下の3点を含む研究を遂行した。 (1) 近代英語教会第34回大会(2017年6月24日)のシンボジウム「英語音変化研究の課題と展望」(青山学院大学)において「英語史における音・書記の相互作用 中英語から近代英語にかけての事例から」と題する口頭発表を行なった。 (2) 英語のスペリングの歴史に関する著書 Horobin、Simon. *Does Spelling Matter?* Oxford: OUP、2013、を "スペリングの歴史に関する著書 Horobin、Simon. *Does Spelling Matter?* Oxford: OUP、2013、を "スペリングの競史に関する著書 Horobin、Simon. *Does Spelling Matter?* Oxford: OUP、2013、を "スペリングの英語史』として翻訳出版した。 (3) の文字を巡る英語のスペリングの諸問題について、"*Telling a Lie* vs *Lying*: Exaptation of the Spelling in the History of English," と題する論文を執筆した。 この3点を中心とする同題を研究することで、現代英語のスペリングのもつ諸問題を歴史的な観点から見直し、英語教育や歴史教育に資する英語史について洞察を得ることができた。英語を学ぶということが単に語学的技術を習得するということではなく、それ以上に広く言語や歴史の理解にも通じるということが、各学者が認識することによって、学習意欲を高めることができるはずである。また、主としてウェブ媒体を通じて、その成果を公開している(http://user.keio.ac.jp/~rhotta/hellog/)。 具体的には、研究内容に関わる連載記事や他情報へのリンク集を作成し、新しい「教育のための英語史記述の方法」を探り続けている。 The aim of this research is to argue against the conventional historiography of the English language only for academic purposes and to point out the importance of historiography for teaching English and history. In this academic year, I conducted research into historiography for teaching English and history. In this academic year, I conducted research into historiography for teaching English and history. In this academic year, I conducted research into historiography for teaching English and history. In this academic year, I conducted research into historiography for teaching English and history. In this academic year, I conducted research into historiography for teaching English and Middle to Modern English						
	http://user.keio.ac.jp/~rhotta/hellog.						
Notes							
Genre	Research Paper						
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=2017000001-20170134						

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって 保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

2017 年度 学事振興資金 (個人研究) 研究成果実績報告書

研究代表者	所属	文学部	職名	教授	一補助額	200	(B) =	千円
	氏名	堀田 隆一	氏名 (英語)	Hotta, Ryuichi		200 (E	(D) Tr	r 173

研究課題 (日本語)

教育のための英語史記述の方法

研究課題 (英訳)

On the historiography of the English language for education

1. 研究成果実績の概要

本研究の目的は、従来の英語史記述がもっぱら学術的な意図をもって書かれてきたことに対して意義を唱え、英語史が英語教育や歴史教育のために書かれるべきことを提案し、その方法について議論することである。本年度は、英単語の発音とスペリングの関係を巡る歴史的な問題について、英語原著の翻訳出版、論文執筆、学会発表などを行なった。具体的には以下の3点を含む研究を遂行した。

- (1) 近代英語教会第 34 回大会(2017 年 6 月 24 日)のシンポジウム「英語音変化研究の課題と展望」(青山学院大学)において「英語 史における音・書記の相互作用 --- 中英語から近代英語にかけての事例から ---」と題する口頭発表を行なった。
- (2) 英語のスペリングの歴史に関する著書 Horobin, Simon. *Does Spelling Matter?* Oxford: OUP, 2013. を『スペリングの英語史』とし て翻訳出版した。
- (3) <y> の文字を巡る英語のスペリングの諸問題について、"*Telling a Lie* vs *Lying*: Exaptation of the Spelling <y> in the History of English," と題する論文を執筆した。

この3点を中心とする問題を研究することで、現代英語のスペリングのもつ諸問題を歴史的な観点から見直し、英語教育や歴史教育に資する英語史について洞察を得ることができた。英語を学ぶということが単に語学的技術を習得するということではなく、それ以上に広く言語や歴史の理解にも通じるということを、各学習者が認識することによって、学習意欲を高めることができるはずである。

また、主としてウェブ媒体を通じて、その成果を公開している(http://user.keio.ac.jp/~rhotta/hellog/)。具体的には、研究内容に関わる連載記事や他情報へのリンク集を作成し、新しい「教育のための英語史記述の方法」を探り続けている。

2. 研究成果実績の概要(英訳)

The aim of this research is to argue against the conventional historiography of the English language only for academic purposes and to point out the importance of historiography for teaching English and history. In this academic year, I conducted research into historical linguistic issues about the relationship between spelling and pronunciation. I made the following three achievements in particular.

- (1) I read a paper entitled "Interaction of speech and sound in the history of English --- Cases from Middle to Modern English --- " at the Symposium on "The Prospect of English Sound Change Studies" (Aoyama Gakuin University) at the 34th Conference of Modern English Association (24 June 2017).
- (2) I published a Japanese translation of Simon Horobin's book about the history of English spelling, *Does Spelling Matter?* (Oxford: OUP, 2013).
- (3) I wrote a paper entitled "*Telling a Lie* vs *Lying*: Exaptation of the Spelling $\langle y \rangle$ in the History of English," which clarifies the complex history of the use of the letter $\langle y \rangle$.

Through these studies, I was able to arrive at a better understanding of Present-Day English spelling from a historical point of view and gain insight into the English history that contributes to teaching the language and its related history.

I add to say that many of the achievements are now available online at http://user.keio.ac.jp/~rhotta/hellog.

3. 本研究課題に関する発表								
発表者氏名 (著者・講演者)	発表課題名 (著書名・演題)	発表学術誌名 (著書発行所・講演学会)	学術誌発行年月 (著書発行年月・講演年月)					
堀田隆一	「英語史における音・書記の相互作用 中英語から近代英語にかけての事例から」	近代英語協会第 34 回大会	2017年6月					
堀田隆一	『スペリングの英語史』	早川書房	2017年9月					
Hotta, Ryuichi	*Telling a Lie* vs *Lying*: Exaptation of the Spelling <y> in the History of English</y>	『藝文研究』第 113 巻, 第 2 号	2017年3月					